

10/24  
(金)

テーマ  
『泉南市部落差別解消推進  
基本方針・プランを学ぼう！』

# きずな

## 第28号

2026年5月

＜発行＞  
泉南市人権啓発  
推進協議会

バックナン  
バーはこちら



今年度の泉南市人権啓

発講演会では、25年5月に策定された「泉南市部落差別解消推進基本方針・プラン」をもとに、部落差別を通して、「まだあるの?」「どこにあるの?」「なくせるの?」「なくせるの?」という3つの問いから迫ることで、様々な人権課題の解決につながるヒントを近畿大学名誉教授の奥田均さんから教えていただきました。

「まだあるの?」

奥田さんからは、差別の現実について、自分の経験をもとに決めていないかと問いかけられました。私自身も、課題があったときに「しんどいな」という抽象的な捉え方しかしていないこともありました。自分たちの課題として捉え、克服するためには、根拠となる数値や当事者の声など、現実を正確に捉えることが必要だと改めて感じました。

「どこにあるの?」

当事者とは誰なのか。この言葉を聞いたときに、私自身も被差別の当事者を想像していました。しかし、奥田さんの、加差別の現実があるから被差別があるという指摘を受

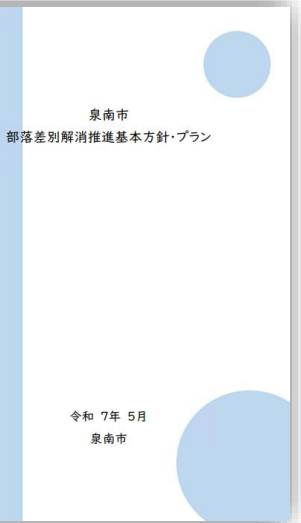
け、私自身も加差別にも

被差別にもなる可能性のある当事者だという意識が欠如していたことに気づかされました。

「なくせるの?」

今回策定された泉南市部落差別解消推進基本方針・プランでは、これまでの環境改善など当事者対策だった人権施策とは異なり、「忌避意識の解消」をめざす「社会システムづくり」へと、「改善」から「解消」に変革していると教えていただきました。

しかし、社会システムを創ることが私たちのゴールではありません。「取り組まない差別は解消されない」という奥田さんの言葉のとおり、私たち一人ひとりが差別



令和 7年 5月  
泉南市



上図の方針・プランは泉南市のホームページより閲覧できます。

の現実に関わる当事者として、今回の講演会で学んだことを一人でも多く広げていくことも、差別の解消につながるのではないのでしょうか。これからは、部落差別のない泉南市に向けて、ともに取り組みを進めて行きたいと思えます。

(参加者 K・M)

### 【参加者の声】

◆被差別者の心の中、気持ちが一番に考えなければいけないということに気づきました。

◆取り組まない差別は解消されないという言葉が印象的でした。

◆加差別という概念は目から鱗でした。今日の講演を聞けば、自分が間違いない加差別者だということがわかりました。これはもはや差別だけの話に留まらない気がします。必要なのは、「被害者を守ること」よりも「加害者を生み出さないこと」なのかと思いました。

◆身近に話をしてくれる人がいなければ、「自分の周囲に差別がない」と感じてしまうことが間違いであるということに改めて気づかされました。差別の当事者がいなくても差別があるということを、常に意識して勉強していきたいと思えます。

# ～きずな・今年もたくさんつながりあいました～

## 2025人権週間

毎年12月4日～12月10日は「人権週間」です。今年も人権週間にちなんださまざまな行事（人権作品展、イオンイベントなど）が開催されましたので、紹介します。

### 『人権作品展』

11月26日（水）から30日（日）、イオンモールりんくう泉南・イオンホールにて、人権作品展が開催されました。

市内の幼稚園・保育所・認定こども園の子どもたちが作る共同作品や小・中学校の児童・生徒、市民の方々からの習字・写真・標語などの応募作品が展示されました。

#### 【参加者の声】

◆泉南地域ですくすくと育つ子どもたちの姿が、ありありと見えるような展示でした。明るい未来が待っていますように。



◆人権を大切にしている教育が小さい時からされているのが、素晴らしいなと思いました。各作品展示もどれも素晴らしいものでした。また次回も楽しみにさせてもらえたらと思います。

◆自分の子どもの作品が展示されているという案内があり、訪れました。色々な方面の作品があり素敵でした。小学生の一言を読ませていただき胸が打たれました。個性のある一言が短い文でも伝わりました。



## イオンイベント

### 戦後80年戦争の記憶を語り継ぐ～平和へのメッセージ～

11/30（日）、イオンモールりんくう泉南イオンホールで『戦争体験を語る』と題して小栗通生さん、眞鍋正子さん、向井通彦さん3人の方から、それぞれの体験や、戦後80年を経た今思う事、更には戦争を体験していない方々へのメッセージを伝えてもらいました。

戦争を体験した方たちの記憶が薄れ高齢化していく中、今も鮮明に蘇る米軍の一斉掃射や、大陸満州での生活から苦難の帰国、誕生前の疎開中に出征し顔を知らない父への想い、平和への願いを熱く語っていただき、

あつという間の2時間でした。

尚、本紙『きずな』第8号と9号に同じテーマで行った座談会記事を掲載しています。1面表題下のQRコードでバックナンバーを閲覧出来るので、併せてご覧ください。（西信達校区 柿本 繁雄）

#### 【参加者の声】

◆戦争はいけない、してはならない、幸せになる人は誰もいないという言葉が印象に残りました。

◆ギター・サクスの演奏もすごく良かったです！三人のそれぞれの辛い戦争体験に涙が出ました。

た。これからも語り継いでください！

◆素敵なギター演奏と大変な思いをされた体験談を聞かせていただき、感銘を受けました。「戦争しても誰も幸せになれない」その通りだと思います。



市内在住3名の方に当時の様子をお話していただきます



小栗さん 眞鍋さん 向井さん

#### 人権週間 駅頭啓発

11月28日（金）、「人権週間」の駅頭啓発を市内4駅で、早朝の約1時間、人権啓発推進協議会役員、人権擁護委員、市職員らが通勤や通学する市民の皆さんに啓発物品を配布し、人権尊重のまちづくりを呼びかけました。





# ふれあい つながりあい 気づきあい 2025 人権週間 市民の集い



## 映画「港に灯がともる」を上映

12月14日(日)の「市民の集い」午後の部に参加しました。会場は天候のせいも、いつもより人数が少なく感じました。

まずは児童書画展の表彰式があり、子どもたちが緊張しながら表彰されるのを見て、その特技を伸ばし続けてくれるよう、拍手を送りました。

次は「港に灯がともる」という映画を観ました。31年前の阪神・淡路大震災の翌年に産まれた在日外国人の主人公が、悩み苦しみながら、それでも前を向いて生き抜いていく様子を描いた映画でした。心が辛くて入院した時、その対応として深呼吸をすることを教えてもらい、深呼吸をして心を落ち着かせる場面がよく出てきました。その息遣いの中に、彼女の苦痛と前向きな気持ちが入

り交じっているように思いました。最後に港が見える丘で、折り合いが悪かった父親に電話をし、互いに分かり合える一歩となり、思いやりのある会話に心を打たれました。彼女の顔も、これから前向きに歩もうとするスッキリした顔つきでした。

人の生きづらさを、生きやすく、暮らしやすいように変えるには、この主人公のように「私は何なんやろ?」と悩みながら、周りとのつながりを大切に、生きていけば可能だと思えます。人に相談し、頼れる人に頼り、共に生きていくことが大切なことだと思います。

世の中に背中を向けているときは、自分も失敗だらけのことが多いです。人とのつながりを大事に育てていき、毎日色々あるけれど今を大切にし、

新しい自分でやり直すという気分で生きていこうと思えました。

(雄信校区 向井 恵子)



### 【参加者の声】

◆食べ物もおいしく温まりました。展示も生き生きとして素晴らしかったです。

◆映画は心にじんとするものがありました。私も前向きに生きようと思えました。

◆防災グッズ(段ボール材を使ったベッドやトイレ)について理解が深まりました。とても実用性があると思いました。

◆素晴らしい映画をありがとうございました。差別がいつまでも続いていることにショックを受けました。

◆お互いを認め合い尊重し合えれば、人権問題は解決できる方向へといくだろうと思います!



### ＼関空で人権啓発／

12月4日、関西国際空港で、大阪法務局岸和田支局管内市町の人権擁護委員が集まり、人権週間の啓発活動として、啓発物品を配布しました。

様々な国の人たちが出入りする場所なので、日本語以外の言語で書かれた人権相談のリーフレットを配布したところ、たくさんの方が読んでくれました。



### ～牢獄・道頓堀・葭島刑場跡をスタディ・クルーズ～

今年度は  
泉南市人権協会と合同で  
開催しました♪



結論として、参加でき  
て非常に良かったと思っ  
ています。

まず、β本町橋講習室  
で、上杉總さんの講義か  
ら、渡邊村や穢多崎（え  
たがさき）について教わ  
りました。渡邊村とは、  
皮革を生業とする部落で、  
処刑や遺体処理に携わっ  
ていたそうです。

午前中は、陸地での  
フィールドワーク。徒歩  
で東西の奉行所跡や中大  
江公園の牢獄舎跡、そし  
て、近くの土壇場につい  
て説明を受けました。

午後は、船上ファイ  
ールドワークで、八軒屋浜船  
着場から乗船しました。

船から見上げた大阪城の  
天守閣は緑の瓦と金の装  
飾が青空に映えて、大変  
綺麗でした。

幾つもの橋を潜り、東  
横堀川水門から道頓堀川  
へ。日本橋船着場にて一  
旦下船し、千日刑場跡地  
を訪ねました。再び乗船  
し、道頓堀川水門から木  
津川へ。

穢多崎砦や葭島刑場跡  
地の説明を受けつつ、快  
適な船旅を楽しんだ後、  
大阪ドーム岩崎橋にて解  
散しました。

大阪中心部の史跡を徒  
歩と船で巡りながら、大  
阪の歴史も学べる、極め  
て有意義な体験でした。  
(会長 張戸 節雄)

【参加者の声】

◆刑場のこと、見たこと  
のない水上からの景色を  
見せてもらってよかった。  
◆大阪の歴史や社会の知  
らなかつたことがよくわ  
かった。昔からあつた部  
落の惨状がわかり悲しく  
なつた。

◆道頓堀川、普段は何も  
思わず見ていました。歴  
史のお話を聞いて見方が  
変わりました。色々勉強  
になりました。

◆刑場の仕事を強要され  
た渡邊村の人々の苦悩を  
想像することができまし  
た。理不尽のことがまか  
り通っていた時代のこと  
を色々考えさせられまし  
た。

## 一丘中学校初！校区の集い開催！

2025年9月12日(金)、一丘中学校にて、芸術鑑賞会を兼ねた人権校区の集いが開催されました。講師には、世界的に活躍する日本民俗音楽芸能集団の「あべや(ABEYA)」さんをお迎えしました。

第一部の鑑賞会では、阿部金三郎・銀三郎兄弟を中心とするメンバーが、迫力ある津軽三味線の生演奏や伝統芸能のパフォーマンスを披露。体育館に響き渡る力強い音色と、伝統芸能に現代的な笑いを交えたパフォーマンスに、参加者は深く魅了されました。

続く第二部では、津軽三味線の歴史を「人権」の視点から紐解く講演が行われました。津軽三味線には、かつて「ボサマ」と呼ばれた盲目の旅芸人たちが、差別や貧困という過酷な環境下で、生きるために技を磨き、独自の文化を切り拓いてきた背景があります。生徒たちは日本の伝統文化の奥深さに触れるとともに、メンバーがこれまでの活動で培ってきた「個性を尊重し合う大切さ」や「夢に向かって挑戦する姿勢」についての講話に熱心に耳を傾けていました。

芸術の持つエネルギーと人権というテーマが融合したこの会は、生徒たちが多様な価値観を認め合い、互いの人権を守る意識を高める貴重な機会となりました。

(一丘校区 岡本 晃)



### 編集後記

2026年冬季オリンピックが開催され、私達にたくさんの感動を与えてくれましたが、人権的な問題も生起され、次回フランスで行われるオリンピックが真の平和の祭典となるよう祈念いたします。

編集委員 (K・A)